

# 私学の魂

共立女子中学高等学校

## 「誠実・勤勉・友愛」の校訓のもと 女子校では最大規模のダイバーシティ環境で 多様な個性を持つ友達と出会って刺激し合い 大らかな人間力と幅広い学力を育てる都会派女子進学校

国内でも最高の「本と文化と学問の街」神保町～一橋エリア。東京の真ん中で、首都圏の女子校ではいまま最大規模の生徒数を保ちながら、なおかつ卒業生の大学進学実績や多方面での活躍も注目される共立女子中学高等学校。女子校のなかでも大らかな校風で、どんなタイプの女子でも学校生活を楽しむことができる同校は、親しみと愛着を込めて、内外から「女子校のなかの男子校」と言われることもあるといいます。

そして今春 2016 年入試からは、3 回目のC日程の入試科目を「算数+合科型論述テスト」に変更して確かな手応えを得て、さらに来春 2017 年入試では、このC日程を 2 月 3 日に変更し、募集定員を 30 名から 40 名に増加させて注目を集めています。

今回は、共立女子中高の校長を 2015 年から務める児島博之先生をはじめとした先生方にお話を伺い、共立女子らしさを感じさせる授業を見せていただきました。



校長 児島 博之先生



中学教頭 今井 利夫先生

DATA  
1

### 共立女子中学高等学校

沿革 1886 (明治 19) 年  
1936 (昭和 11) 年  
1947 (昭和 22) 年  
1948 (昭和 23) 年  
1986 (昭和 61) 年  
1996 (平成 8) 年  
1997 (平成 9) 年  
2005 (平成 17) 年  
2006 (平成 18) 年  
2016 (平成 28) 年  
2017 (平成 29) 年  
2017 (平成 29) 年 3 月

女性が自立し、社会人として職業に就くことを目的として、教育界の先覚者 34 名により共立女子職業学校設立  
共立高等女学校設置  
共立女子中学校設置  
共立女子高等学校設置  
共立女子学園 創立 100 周年  
高等学校創立 60 周年 (高等女学校開設より)  
中学校創立 50 周年  
中高新校舎高校エリア完成  
中高新校舎中学エリア完成、高等学校からの生徒募集停止  
第 3 回 C 日程入試科目を「算数+合科型論述テスト」に変更  
第 3 回 C 日程入試を 2/4 → 2/3 に変更し、募集定員を 30 名→ 40 名に増加  
共立講堂改修工事完成 (予定)

校長 児島 博之

所在地 〒 101-8433 東京都千代田区一橋 2-2-1  
TEL : 03-3237-2744  
<https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/chukou/>

交通 東京メトロ半蔵門線・都営地下鉄三田線・同新線「神保町駅」から徒歩 3 分。東京メトロ東西線「竹橋駅」から徒歩 5 分。

## 多くの友達と触れ合うことで 充実した人間関係を築ける 多様性と柔軟性を持つ元気な女子校！

もし共立女子中高がどのような学校かと聞かれたら「多様性と柔軟性を持った『元気な女子校』と答えるのがいちばん適切ではないかと思います」と日頃から述べている校長の児島博之先生。その児島先生に、その多様性とはどういうことか聞いてみました。

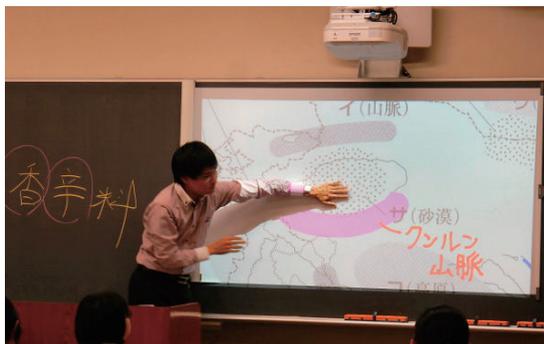
「ピーク時には1学年600名(中学10クラス・高校12クラス)の生徒がいたこともありますが、いまは高校募集をしない完全中高一貫の形で1学年320名という規模になっています。それでも首都圏の私立女子校では最も大きな学校ではないかと思います。

本校は、その生徒数が多いことを生かす学校でありたいと思っています。少子化で周囲に揉まれることの少なくなった現代では、いろいろな個性や価値観を持った人々と接する経験がかえって貴重です。たとえば勉強は一人で机に向かってでもできるけど、行事は仲間と一緒にないとできません。

ですから本校ではクラス替えも高2まで毎年行います。8クラスありますので、前のクラスから一緒なのは4~5人ですから、卒業までに多くの友達と触れ合うこととなります。行事でも運動会などは8クラスの対抗戦で、ドッジボールやバスケット・バレーボールなどの大会はパワー全開で大変な盛り上がりです。一方では毎年クラス替えをすることで、その節目に友達関係をいったんリセットして、新しい環境での出会いの経験をすることもできます」と児島先生。

少子化のなか、一時期は「わが子をきめ細かく大事に面倒見てほしい」という保護者の気持ちからか、小規模な学校が好まれる傾向が一時期はありました。でも、必ずしも「小規模=良い学校」ではありません。

「本校ではむしろ積極的に“混ざり合ってください”



地理の授業でも電子黒板を使い、中国の地図を見ながら香辛料の産地に思いを馳せる。

と保護者に伝えていきます。帰国生に対してもそう話しています。特別な扱いはしませんよと…。先ほどのクラス替えも、毎年行うことで多くの生徒と出会うことができ、かえって個々の生徒が自由になれる(=解放・開放された状態になれる)と感じています。これも、いま教育の課題としていわれる“ダイバーシティ”的な教育環境だと思っています。

教員と生徒との関係もそうです。本校は教員も多く、専任教諭一人あたりの生徒数は「18.7名」と、私立の平均と比べても恵まれています。6年間持ち上がる担任も少なくありませんが、学年や教科には多くの担当者がいますから、卒業までにいろいろな先生と出会うことができます。女子校には珍しく教員の男性・女性の比率では男性がやや多く、それも共立女子の大らかな校風の一因かもしれません。

行事の盛り上がりや学校生活の明るさや活気から“女子校のなかの男子校”と呼ばれることもあるんですよ」と今井先生はにこやかに教えてくれました。

## 教育目標に掲げた「4つの力」を培い、 富士山のように裾野の広い教養を持った 時代を超えて“輝き、翔ばたく女性”に！

共立女子学園は「女性の自立」を建学の精神とし、「誠実・勤勉・友愛」を校訓としています。このうちの「友愛」は、新制中高初代校長鳩山薫が欧米の「友愛革命」という考えに共鳴し、後から加えたものだといいます。それにしても、130年前に「女性の自立」を掲げて学園が創立され、「友愛」という概念を校訓に加えた学校は珍しいでしょう。

そして現在では、その校訓のもと、「時代を超えて“輝き、翔ばたく女性”」の育成を教育目標に掲げています。「男女共同参画社会」のよき担い手として、また一人ひとりが社会人・家庭人として、豊かな人生を歩んでい



理科の授業では電子黒板を使い、仲間と話し合っ



在校生に人気 No.1 のスポット、オープンスペース。

くために「育てたい生徒像」です。

「歴代の校長と教員は、子どもたちの持っている個性や文化（＝バックボーン）を大切にしたいと考えてきました。それが『友愛』という言葉にも込められていたと思います。もちろん、思春期の多様な生徒が集まるわけですから、最初は認め合うことができない場合もあります。

ですから、中2あたりは担任の難しい時期です。ただ、そうしたときにも焦らず自立に向かった成長を見守っていくと、やがて中3の後半くらいから、人との付き合い方や距離の取り方がわかってきて、互いの違いや存在を認め合うことができるようになります」と児島先生。

確かに、女子校では女子どうしの人間関係の難しさを心配する保護者もいます。その点を共立女子はどのようにケアしているのでしょうか。

「だからこそ、中1や中2の早い時期ならば多少のぶつかり合いがあってもよいと考えています。ただ、しっかり見守っていく必要はあります。そのために、担任・副担任に加えてベテランの学年主任が担任を持たずに、各担任のサポートやアドバイスができるようにしています。

また、生徒数が多いと、個々の生徒が居場所や距離感を変えることもしやすいですから、その点も女子校ながら大らかな環境だと思います」



実技教科の充実も共立女子の特色。自分の手を使って作品を作り上げるのは楽しみ。



共立女子中高では、先の教育目標に掲げられた「時代を超えて“輝き、翔ばたく女性”となるために、「4つの力」が必要だと考えています。それが、人間形成としての「関わる力（人間関係力＝他を理解し、他を尊ぶ。豊かな情操と礼儀を身につける）」、「動く力（計画行動力＝自分の役割を把握し、その役割を果たす。自主的、自発的に行動する）」と、学力形成としての「考える力（情報活用力＝知識、情報を収集する。得た知識・情報を活用し発信する）」、「解く力（問題解決力＝課題を設定する。問題の解決に取り組む）」という4つの力です。その最初に「関わる力」をあげている点が、女子校としての人間関係力を重視し、その点の成長を生徒に期待している教育姿勢の反映ともいえるでしょう。

同校の『学校案内』の冒頭には、「日本の未来、その経済的、文化的、芸術的、学術的発展を考える上で、最大の鍵となっているのが、女性の力の活用です。女性の持つ多様な才能と豊かな感性、未知のエネルギ―等をいかに有効に活用していけるかが、大きな課題となっています。……」と謳われています。

「日本の教育が変わろうとしている時代に、本校が『どういった生徒を育てたいか』ともう一度突き詰めて考えたときに生まれたのが『4つの力』という考え方でした。これからのグローバル&ボーダーレス化が進む時代には、ますます『関わる力』が大事ですね。

これらの『4つの力』は、一人ひとりの中に必ずしも等しく備わっているわけではありません。だからこそ一人ひとりに個性が生まれるわけですが、『4つの力』をバランスよく備えることができれば、ひととき輝きを増し、大きく翔ばたくことができると考えているのです」と児島先生は生徒への期待を語ります。そして、

人間形成、学力形成のどちらにも大切なのが人や社会の出来事に向ける好奇心です。

「だからこそ、できるだけ幅広い学びをしてほしいと思っています。この6年間は、教養の幅を広げる土台作りの時期ですから、単に高いだけの建物ではなく、富士山のように裾野の広い、幅のある人間力と学力を身につけてほしいと願っています」と児島先生は強調します。



オンライン英会話に取り組む生徒の様子。

## 多様な進路希望に応える指導体制を備え、 2020年教育改革にもいち早く対応した ダイナミックで柔軟な教育姿勢

共立女子中高から大学受験に挑む際には、現在「併設高校特別推薦制度」という、他の大学へのチャレンジを希望する生徒にも共立女子大学への推薦が確保される恵まれた制度があります。

「この制度が導入されてから20年たちますが、いまは学年のほぼ半数が共立女子大学の合格をもらって、安心して国公立や私立の難関大学にチャレンジしています。これは生徒にとっても保護者にとっても、心強い後押しになっているようです。

もっとも、当初から共立女子大学への進学を考えている生徒もいますし、一方では最難関に挑戦したいと思う生徒もいます。『生徒の数だけ道がある』ので、その多種多様な目標を達成するには、それぞれが目標とする進路先が求めるレベルの学力を養成することが必要です。2006年から完全中高一貫カリキュラムを導入したのは、その目標を達成するためでもあります」と今井先生。

最近の女子進学校には理系を希望する生徒が増えていくといいますが、同校はどうなのでしょう。

「実際には文系希望の方が多いのが現状で、文系5クラス、理系3クラスです。しかし理系希望者も増えていて、国公立大学志向も強まっています。毎年東京工業大学に合格者が出ていて、本校から進学した卒業生は実験にとっても熱心に打ち込むというので、興味を持った東工大の教授が『どういふ女子校か?』と訪ねて来



英語の授業ではとにかく発声。生徒の反応も軽やか！

られたほどです（笑）」と児島先生は、卒業生の評判に目を細めます。

そして共立女子中高では、「2020年教育改革（大学入試改革）」に対応する取り組みも急速に進めています。それが、「グローバル教育への取り組み」と「表現力育成への取り組み」、そして今春2016年からの「C日程新タイプ入試」の導入です。

時代の要請に合わせて、「グローバル教育」では、まず全員が英語に親しめるように、放課後にネイティブが常駐するランゲージスクエアを開設。ここで語学や異文化を楽しみながら学ぶことができるようになりました。

また海外のネイティブ講師と1対1で会話を通して英語を学ぶオンライン英会話（中学）や、中世英国の「街」が再現されたブリティッシュヒルズでの語学研修・異文化体験（高校）も導入されています。さらに希望者対象に、イングリッシュシャワー（中学）や夏季海外研修（高校）、ニュージーランド姉妹校交換留学（高校）など世界への飛躍を目指せる環境も整えています。

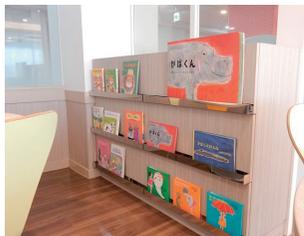
「オンライン英会話は、昨年の中1から導入しました。フィリピンのネイティブ講師と1回につき25分、マンツーマンで対面するシステムで、生徒は楽しんで取り組んでいます。中1は年に10回、今年の中2は年に30回取り組んでいます。来年は中3でも年30回くらい取り組ませたいと考えています。本校は生徒数が多いので、かなり安価で導入でき、保護者にも喜ばれています」と今井先生。

もうひとつの「表現力育成への取り組み」では、調べ学習や発表（プレゼンテーション）をかなり多くの場面で取り入れています。

「本校では、各学年で宿泊行事が行われる度に発表の場を設けています。中1は



グローバル教育の充実のために開設されたランゲージスクエアはもちろん ENGLISH ONLY !



人気のカフェテリア「Foo Zoo」。この名称は生徒が考えたもの。絵本作家・中谷千代子さんの絵本の原画が展示され、その絵本も読める。

個人で、中2はグループで、中3は英語で、といった順で形式も変わっていきます。先日も中3が修学旅行で学んだことを、英語で紹介する発表会がありました。また、個々の生徒が自分で注目したテーマに沿った本を紹介する『ブックトーク』なども行って、この取り組みを高校では『ビブリオバトル』に発展させています」と児島先生は、最近の変化や動きを話してくれました。

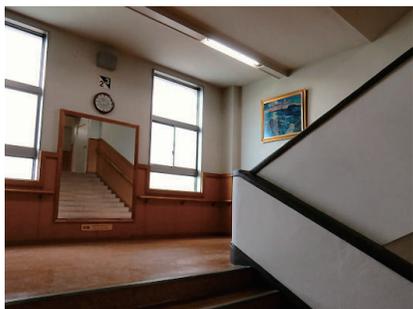
このダイナミックな柔軟性が、多様性と並び共立女子のもうひとつの大きな魅力なのでしょう。

## 気概と“伸びしろ”を持つ小学生を歓迎する C日程「合科型論述テスト」を導入。 来春入試ではさらに募集定員増へ！

そして「2020年教育改革（大学入試改革）」に対応するもうひとつの取り組みが、今春2016年からの「C日程新タイプ入試」の導入です。同校は今年の入試から、第3回の2月4日C日程入試を、「算数+合科型論述テスト」という

新たな形態に変更しました。

「志願者（受験者）が激減することも覚悟のうえで、思い切って導入に踏み



階段の踊り場には名画が掛けられ、本物の芸術に触れる機会が日常的にある。

切りました。将来の社会で必要とされる力の変化にとまない、大学入試と日本の教育が変わろうとしているわけですから、「女性の自立（自律）と社会での活躍」を教育目標にする本校が、その変化を見過ごすことはできません。英語の入試問題なども検討したのですが、まずは2020年以降の大学入試で出題される「合科型」の「論述（記述）問題」に対応できる力につながるような入試を、本校からのメッセージとして導入したわけです」と児島先生。

今後大きく変化する大学入試と日本の教育に正面から対応できる力を育てるために、中学入試の入り口から変えていくという英断が素早くできたのも、共立女子の柔軟さによるものでしょう。完全な中高6年間一貫教育の体制であることも無縁ではないはずです。

「たとえC日程の志願者が減っても、本校を第1志望にする受験生が来てくれればよいと考えていましたが、ふたを開けてみると、当日に来校してくれた実受験者は前年より一人しか減りませんでした。こうした『合科型の論述問題』は怖がられるかと思っていたのですが、その反面、あえて挑戦しようという受験生の気概にも期待しました。嬉しい悲鳴で、記述問題の解答にも素晴らしいものが多く、採点しながら教員が喜んでいて、危うく合格発表に間に合わなくなるところだったほどです。



廊下には家庭科の作品が…。高校の選択「被服」になると浴衣も一人で完成させるといふ。

そして41名合格発表を出したのですが、そのうち何と39名が入学の手続きをしてくれて、予想以上の歩留まりの良さでした。この入試で合格した受験生には、入学後もリーダーシップをとるような子が多く、大きな“伸びしろ”を持った小学生が来てくれたという手応えを得ることができました」と児島先生。

そして共立女子中学校の来春2017年の入試では、この第3回C日程入試を2月4日から3日に変更し、同時に募集定員を30名から40名に増加させます。



中学3年間隔週である礼法の授業は共立女子の特徴のひとつ。この経験は卒業生にも感謝されるという。

こうした新しいタイプの入試に“チャレンジしてみたい”と思う小学生と保護者は、あらためてこの「科目型論述テスト」に注目してほしいと思います。

### 礼法、華道、茶道などの日本文化体験と美術、技術・家庭科などの豊かな実技体験がグローバルな活躍に向けての糧になる！

先ほども「幅広い学び」の話がありましたが、美術や技術、礼法などの文化的、教養的な授業が充実していることも、共立女子中高の特徴でしょう。

「まず礼法や華道、茶道など日本の文化をしっかりと身に着けられることが本校の特徴でもあります。とくに礼法は卒業生から感謝されることが多いですね。卒業式などの式典のときには、とくに「起立・礼・着席」と号令をかけるわけでもないのに、生徒は自然な立居振舞でお辞儀ができます。

華道は課外講座として4流派、茶道は部活動として2流派あって、伝統文化を学ぶことができます。そうした所作を身に着けることも、グローバル社会ではかえって大切なことですよ。今年度から主に帰国子女の小学生を

対象に、「礼法、華道、茶道」と「英会話」が体験できる「グローバル教養講座」という体験講座を希望者に開講していますが、大好評です。

また、美術



中2の美術では想定自画像を描く。この体験が自分と向き合い他人を理解し、互いに尊重し合うきっかけになる。

の授業も特徴的です。中2の想定自画像を描く授業は、思春期に自分を見つめ、他者のことを理解するうえでも、大事なきっかけや気づきを与えてくれるものです。そのほかにも、実技教科は充実しています。家庭科でのスモックやパジャマづくりなどは、必ず学校で仕上げるところまで行うので、家でお母さんに手伝ってもらうことはできません(笑)と児島先生。

共立女子中高で触れることのできる「学びの幅広さ」は、私立中高一貫校のなかでも出色です。

「部活動の活発なこともお伝えしたいですね。中学には10の運動部と16の文化部、高校には12の運動部と19の文化部があり、活動は週に3~4日以内ですが、どの部もとても活気があります」と今井先生。

こうした部活動や課外講座にエネルギーを注ぎ、教科の授業に加えて、人間形成に大切な仲間と協力しての活動や友達との切磋琢磨が、日常的に体験できることも、共立女子中高のダイナミズムであり魅力といえるでしょう。そんな「明るく元気な女子校」共立女子中学高等学校の魅力をぜひ多くの小学生と保護者に知ってもらいたいと思います。



理科では「音の伝わり方」を実験+電子黒板で学ぶ。授業中にも驚きの声や笑い声が絶えない。